

## 令和4年度 子ども・子育て会議 臨時会議（書面） 結果報告

- 開催日時 令和4年10月25日（火）（書面）
- 協議事項 私立幼稚園の認定こども園への移行及び利用定員の変更に伴う第2期岩見沢市子ども・子育てプランの見直しについて
- 意見提出 1名／11名（意見あり1名、意見なし4名、意見提出なし6名）

## 〈事業見直しについての概略〉

## ■認定こども園への移行について

施設名	岩見沢天使幼稚園	岩見沢聖十字幼稚園
所在地	岩見沢市5条西6丁目8-5	岩見沢市緑が丘1丁目21-14
設置者	学校法人 北海道カトリック学園	学校法人 聖公会北海道学園
認定こども園の種類	幼稚園型認定こども園	
移行年月日	令和5年4月1日	
移行理由	幼稚園の教育を受けながら保育を必要とする家庭が増加しているため	

## ■利用定員の変更について

施設名	駒沢幼稚園	岩見沢聖十字幼稚園
所在地	岩見沢市9条西3丁目1-15	岩見沢市緑が丘1丁目21-14
設置者	学校法人 駒沢岩見沢学園	学校法人 聖公会北海道学園
変更年月日	令和5年4月1日	
変更理由	未就学児の人口減少に伴い恒常的に定員割れが発生しているため	



## 〈意見〉

- ・保育園連盟としては、反対である。
- ・市内全体の特定教育・保育施設の定員について今後5ヵ年計画が発表された時に5年後に市内全体の大幅な少子化が予想された。現実的に毎年少子化が続いている。
- ・岩見沢市として現に待機児童が発生している訳ではない。認可保育園においては、近い将来、必ず定員割れが発生してくる。今回、この2幼稚園のこども園を認可すると必ず他3園も申請してくることが予想される。
- ・今まで市の保育を一切引き受けてきた認可保育園としては納得できないところである。
- ・もし、2園が認可されるのであれば、保育所型こども園の申請があった場合も、認可すべきである。

## 〈結果〉

- ・委員11名中、反対1名、意見なし4名、意見の提出なし6名
- ・意見なし、意見の提出なしは承認をいただいたものとする。
- ・承認10名、反対1名、委員の過半数が承認であるため、「岩見沢市子ども・子育て会議条例」第7条第3項の規定により、議事可決。



## 〈その後の状況〉

- ・岩見沢天使幼稚園及び岩見沢聖十字幼稚園に対して本会議の結果について通知を行ったところ、岩見沢聖十字幼稚園から「園の都合によりR5.4からの認定こども園への移行は取り下げたい」との申出あり。

## 令和4年度 えみふるふあいるに関する専門部会 結果報告

- 開催日時 令和5年2月24日（金）18時、であえる岩見沢
- 出席者 9名／12名

“えみふるふあいる”（以下、ファイル）は、令和元年9月より1歳6か月健診から配布が開始された。令和4年度の専門部会では、ファイルの配布状況、令和4年度の取り組み、今後に向けた取り組みの方向性について報告。ファイルを普及し、効果的に運用するため、保護者や支援者側への具体的な活用例や、支援者の活用意欲の向上に向けた取り組みを中心に審議。

## 1 ファイルの配布状況

ファイルの配布主体である1歳6か月健診だけでなく、その他の支援機関においても必要部数が配布されている。令和7年度には、最初に配布した世代が小学校1年生となる。

## 2 令和4年度の取り組み

## 【1 ファイルに関するアンケートの実施】

## 【2 支援者向け説明会（記録を溜めていくことの重要性について）】

→令和7年度に向けて、学校現場での説明会の開催も増やしていく必要がある。

## 【3 新たな活用の機会の開拓（幼稚園新入園児面談での活用/就学前健診での活用に向けて）】

→各幼稚園での新入園児面談での活用について、全幼稚園に対して情報共有する必要がある。

→就学前健診にて個別の支援計画とは別に、子どもの様子を記入する複写式の用紙を作成し、健診時に提出してもらうことで、新たな引継ぎ資料をファイルに綴ることができる。保護者側は、事前に子どもの様子を学校に伝えられ、学校側も引継ぎ資料を得ることができ、双方にメリットがある。

## 3 今後の取組の方向性

## 【1 保護者の意識を維持する（ファイルを持っていることの意味を伝える/登場機会を増やす）】

・基本シート以外の幅広い活用方法を伝えるとともに、随時新たなオプションシートを作成する。

・市主催のイベントにおいて、オプションシートを活用する。

・R6年度より実施予定の就学前健診に向けた準備をする。

→年齢ごとに育て方のヒントをファイルに記載し、その横に気になることを記入できる欄があれば良い。

→記入する内容（質問）があれば、ファイルを開ききっかけになる。母子手帳には、5歳頃まで記入する欄があり、それ以降は、ファイルに記入できれば良い。

→読書記録のオプションシート（案）に、図書館で借りた本のデータが記載され、その横に感想を書く欄があれば、楽しく読書記録ができるのではないかな。

→障害の認定の際に通知表が必要になる。無くさずにファイルに綴じるよう、声掛けして欲しい。

→年代ごとにモニターを依頼し、ファイルの課題について検討することも必要。

## 【2 支援者への活用意欲の向上（将来のその子の支援において大切な資料になること）】

ファイルで全てを賄おうとするのではなく、「タテ・ヨコの連携」を支える1つのツールであることを伝えていく。また、「子どものために」という考えのもと、後々有用になるよう、記録を綴る必要性を地道に説明会等で訴えていく。

## ・開催概要について

### ◆第1回専門部会◆

○開催日時  
令和4年6月8日 18:00～19:40 であえーる 会議室1

### ○専門部会の構成

第2期プランの策定において児童虐待防止ならびに子どもの貧困対策に係る施策の審議に当たった岩見沢市子ども・子育て会議の委員に加え、ヤングケアラーに関する学識経験者を特別委員、市内教育及び福祉の関係者を助言者として選出し、9名による構成。

### ○主な意見等

- ・ヤングケアラーという言葉が最近聞くようになったこともあり、デートDVと同じように当事者が気付いていないと思う。
- ・お手伝いなのか、担っているのか、境目が難しいと思う。本人からも、判断が難しいのかなと思う。
- ・本人が気付きにくい問題と皆さんからも指摘があったが、周りの大人も気付きにくい。
- ・子育て支援センターに何もかも集中して、家庭相談員が大変だと思う。現状でも既に大変なのに、パンクしてしまう。
- ・ヤングケアラーは、18歳で区切って大丈夫だろうか。大学生でも、小学生の頃からずっとヤングケアラーということで、見逃されているケースもある。
- ・ヤングケアラーは、虐待の扱いに近いイメージ。
- ・自分の家族を相対化することで、他の家と違うことに、声をあげても問題ないということを認識させるのも教育だと思う。
- ・今回の専門部会で特によかったことは、家族支援だということがはっきりしたこと。

### ◆第2回専門部会◆

○開催日時  
令和4年10月21日 18:00～19:15 であえーる 会議室1

### ○会議の趣旨

第1回専門部会の開催を受け、具体的な支援策等について協議。

### ○主な意見等

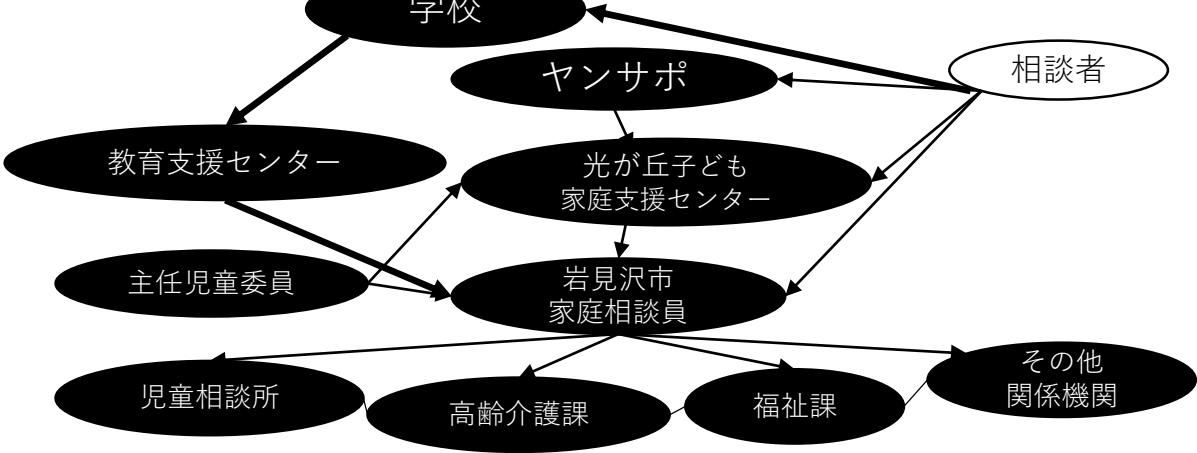
- ・前回の会議の中でも、子育て支援センターに何もかも集中して家庭相談員が大変だと思うという意見があった。現状の相談件数を見ても、かなりの数であり、特に虐待対応件数も増えている状況を見ると、増員を検討すべきでは。
- ・虐待と違ってSOSを出したい訳ではなく、家族を救いたい、使命感を持っている子もいると思う。
- ・早期把握、相談支援、介護サービスの提供、家事育児支援の4つを同時にやっていかないと上手くいかないと思う。
- ・まだ具体的な支援の形が見えていないので、そこが見えてくると手も挙げやすくなってくると思う。
- ・前回の会議でも確認したが、ヤングケアラーの支援は子どもの支援ではなく、家族の支援ということ。子どもが入口というだけで、家族を支えていかないと、ヤングケアラーの問題は解決できない

## 市の支援策等について

### ・相談体制について

→SNS等を利用した相談ができるよう専用端末の用意や家庭相談員を増員しての相談体制の構築を検討中。また学校での相談案件については、従来通り教育支援センターが対応を行い、ヤングケアラー案件の場合は、子育て総合支援センターの家庭相談員につないでもらう。

《相談イメージ図》



## ・認知度を高める普及啓発について

→ポスターやチラシ等の配布及び広報誌への掲載。  
9月下旬から10月上旬にかけて、市内小中学校及び高等学校へポスターやリーフレットを送付し、市役所や支所等にはポスターを掲示した。また12月号の広報誌にヤングケアラーの相談先等について掲載。今後も市内施設等への掲示等、継続的な周知に努める。



## ・アウトリーチ的な支援策について

→障がい福祉ヘルパー等の利用により親や兄弟等をサポートすることで、ヤングケアラーの負担を軽減できるよう世帯を支援するが、活用が難しい場合は、直接ヤングケアラーを支援することができる特別育児支援ヘルパーを派遣し、状況の改善を目指す。

## 特別育児支援ヘルパーについて

目的	家事及び育児の支援を行うことで、子育て家庭の身体的及び精神的負担を軽減し、保護者の養育やヤングケアラーの支援に資するとともに、児童の見守りを行う。
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事</li> <li>・育児</li> <li>・その他必要な家事及び育児</li> <li>・家族の保育所や病院等の送迎</li> <li>・保護者や児童の相談支援</li> <li>・母子保健や子育て支援施策等の情報提供</li> </ul>
派遣時間等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前8時～午後6時</li> <li>・1日1回2時間を上限</li> <li>・派遣回数については、岩見沢市子育て支援推進会議にて決定</li> </ul>
費用	無料

## ・研修会の実施について

→当初、教員を対象とした研修会を予定していたが、北海道よりコーディネーター業務を委託されている社会福祉法人光が丘学園が主催する研修会で、教員や自治体職員向けの研修が実施されたため、対象を変えて下記の通り実施。  
 ・実施日 令和5年2月21日(火)  
 ・場所 であえーる 会議室1  
 ・参加者 子育て総合支援センター(家庭相談員、臨床心理士)、青少年センター長、児童館館長、放課後児童クラブ長、保健センター(保健師)、指導室(主査、SSW)の計22名  
 ・講師 北海道ヤングケアラー相談サポートセンターセンター長 加藤 高一郎 様  
 ※来年度は未受講の教員等を対象に、研修会を行う予定。

## ・今後の専門部会について

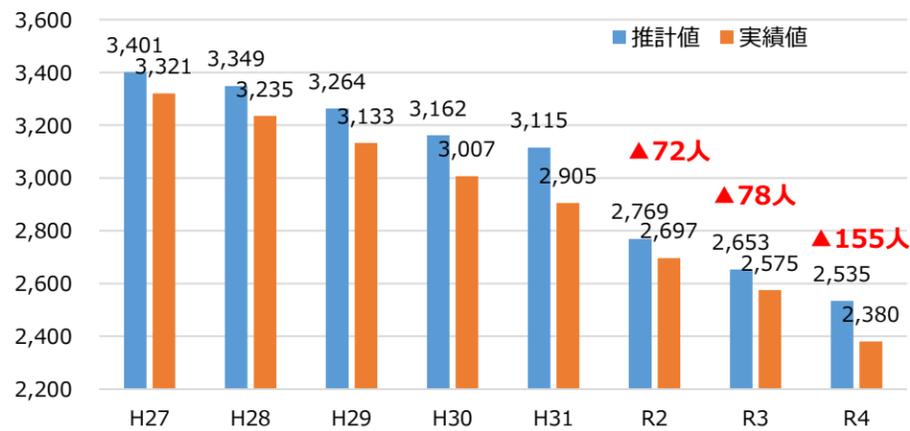
→令和4年度は、2回にわたって専門部会を開催しましたが、支援の方向性を決めることができましたので、令和5年度以降については、年1回の開催を予定しています。

事業実施の経過

■必須事項		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1 児童人口の予測	就学前児童数の推移					
	出生数の推移と0歳児保育	・聖十字わくわく保育園（4月）	・こころ保育園（4月）			
	小学校児童数の推移					
4 地域子ども・子育て支援事業	(2)地域子育て支援拠点事業		・ほろむい認定こども園（4月）			・認定こども園天使幼稚園（4月）（見込み）
	(3)妊婦健診					
	(4)乳幼児全戸訪問事業					
	(5)養育支援訪問事業ほか					
	(6)子育て短期支援事業					
	(7)ファミリー・サポート・センター事業		・保育サービス講習会(9-10月/2月),受講(19人/8人),修了(17人/7人),登録(8人/3人)	・保育サービス講習会（6-7月/11月）,受講(9人/9人),修了(9人/7人),登録(3人/2人)	・保育サービス講習会（6月/11月中止）,受講(9人),補講(2人),修了(11人),登録(5人)	・生活保護世帯、非課税世帯の利用料減免措置を開始予定
	(8)一時預かり事業					
	(9)延長保育業					
	(10)病児保育事業					・実施か所数（病後児対応型）：1か所⇒0 ・利用想定人数（人/日）の変更：6人⇒3人
	(11)放課後児童健全育成事業		・おはようキッズ事業 R2.12末 登録404人、延利用1,287人	・おはようキッズ事業 R3.12末 登録510人、延利用5,762人	・おはようキッズ事業 R4.12末 登録630人、延利用6,208人 ・栗沢小クラブを来夢21こども館に統合	
	5 幼児期の学校教育・保育の一体的提供	幼児教育と保育の質の確保		・保育士等確保対策事業 幼:2園4人、保:6園6人		
■任意記載事項（市が目的に応じて実施する事業）						
7 子どもの教育と遊び環境の充実	(5)児童療育の充実	・えみふるふあいる配布（9月-）	・専門部会（2月）	・専門部会（2月）	・専門部会（2月）	・専門部会（2月予定）
	(6)あそび環境の充実			・療育関連遊具等の充実		・安全設備の充実（大型遊具下マットレス）
9 児童虐待の防止						
10 子どもの貧困対策とひとり親家庭の自立支援	(1)相談支援				・専門部会（ヤングケアラー）開催（6、10月） ・ヤングケアラー研修会（2月）	・専門部会（ヤングケアラー）開催予定 ・ヤングケアラー研修会（8月頃予定）
	(2)教育支援		・子ども体験活動事業補助金（5件） ・学力向上対策事業(8-10月) 送迎バス利用登録者 36人/156人	・子ども体験活動事業補助金（7件） ・学力向上対策事業(8-11月) 送迎バス利用登録者 16人/72人	・子ども体験活動事業補助金（7件） ・学力向上対策事業(8-11月) 送迎バス利用登録者 40人/282人 オンデマンド利用登録者 134人/282人	

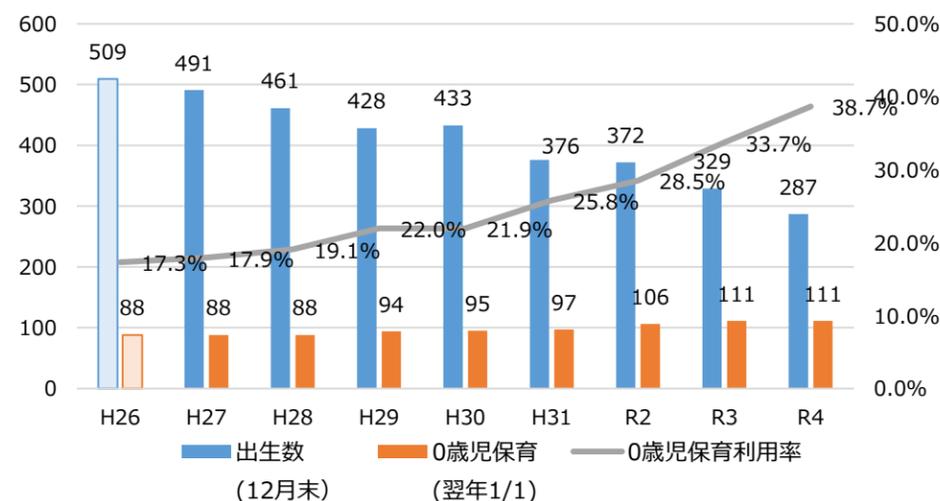
子どもの数の推移

4/1現在 就学前児童数の推移（推計値との比較）



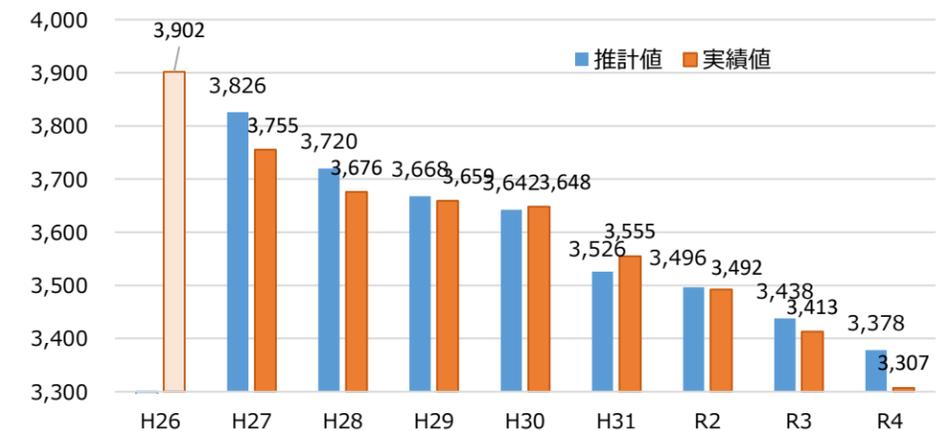
就学前児童数は、第2期プランの策定時に予測した子どもの数が、推計を上回るペースで減少しています。令和4年4月の児童数は、推計値よりも155人、約6%下回っています。

出生数の推移と0歳児保育利用率



出生数は、平成27年以降徐々に減少していましたが、令和3年度以降は、毎年40人以上減少しています。また、0歳児（乳児）の保育所利用率は年々上昇しています。

4/1現在 小学校児童数の推移（推計値との比較）



小学生の数は、平成27～29年度には推計を下回ったものの、平成30～31年度は推計値をやや上回り、令和2年度もほぼ横ばいでしたが、令和3年度から再び推計値を下回っています。

特定教育・保育

■1号認定 幼稚園及び認定こども園（1号枠）

（単位：人）

		R1	R2	R3	R4
①利用人数		(839) 737	(803) 689	(771) 648	(724) 595
②定員	特定教育・保育施設	795	795	765	765
	認定こども園	27	42	42	42
	計	822	837	807	807

※利用人数上段（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込み。

※利用人数下段は各年度は4月1日現在値を記載。

■2号認定 3歳以上の保育所及び認定こども園2号枠、へき地保育所

（単位：人）

		R1	R2	R3	R4
①利用人数		(693) 734	(633) 725	(607) 733	(570) 696
②定員	認可保育所	522	492	492	492
	認定こども園	58	111	111	111
	その他 （認可外、企業主導型ほか）	126	42	42	42
	計	706	645	645	645

※利用人数上段（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込み。

※利用人数下段は各年度は4月1日現在値を記載。

■3号認定 3歳未満の保育所及び認定こども園3号枠、地域型保育、へき地保育所等

（単位：人）

		R1	R2	R3	R4
①利用人数		(493) 516	(524) 542	(500) 524	(488) 481
②定員	認可保育所	438	378	378	378
	認定こども園	47	84	84	84
	特定地域型保育事業	57	76	76	76
	その他 （認可外、企業主導型ほか）	54	45	45	45
	計	596	583	583	583

※利用人数上段（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込み。

※利用人数下段は各年度は4月1日現在値を記載。

地域子ども・子育て支援事業

（2）地域子育て支援拠点事業

事業概要	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業。	
進捗状況	6か所で実施	連絡協議会を開催し、子育て支援に関する連携、情報の共有を図っている。（4・9・1月）

【人】

	R1	R2	R3	R4
量の見込み（人）	—	(20,558) 14,354	(19,653) 13,483	(19,176) 10,096

※（ ）内は計画策定時（R1年度）における量の見込みを示す。

※R4は12月31日現在値を記載。

（3）妊婦健診

事業概要	妊娠の届出があった妊婦に対し、健康診査等を妊娠前期、後期に専門の医療機関に委託し、妊婦の健康保持・増進を図る事業。
進捗状況	当初の計画通り事業を推進している。

【人、件】

	R1	R2	R3	R4
受信票交付件数	(562) 398	(433) 488	(413) 417	(394) 333
健診回数	(7,740) 5,046	(4,646) 3,896	(4,432) 3,684	(4,228) 2,568

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。

※R4は12月31日現在値を記載。

（4）乳幼児全戸訪問事業

事業概要	保健師又は助産師が、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、乳児の発育・母親の健康状態を把握し、指導や助言、情報提供を行うことで、育児不安を解消するとともに孤立化を防ぐことを目的とした事業。
進捗状況	当初の計画通り事業を推進している。

【人、件】

	R1	R2	R3	R4
訪問件数	(284) 159	(245) -	(230) 216	(220) 155

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。

※R4は12月31日現在値を記載。

（5）養育支援訪問事業、子どもを守る地域ネットワーク事業

事業概要	養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保するほか、また、要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク）の機能強化を図るため、調整機関職員やネットワーク構成員（関係機関）の専門性強化とネットワーク機関間の連携強化を図る事業。	
	養育支援訪問	乳幼児健診時などを通じて、養育支援が必要と判断された場合、保健師等が定期的に訪問する。
	産前産後ヘルパー	妊娠届時から子どもが1歳になるまでの間、希望に応じてヘルパーを派遣し、身体的精神的負担を軽減する。
進捗状況	R4.4より特別育児支援ヘルパーをヤングケアラー世帯へ対象拡充	ヤングケアラーのいる世帯において、要対協で支援が必要であると認められた家庭に対し、特別育児支援ヘルパーを派遣する。

【人】

	R1	R2	R3	R4	
訪問延人数	養育支訪	(250) 195	(818) 157	(803) 114	(793) 89
	産前産後へ	(570) 583	(-) 295	(-) 259	(-) 117
	特育支へ	(-) 25	(-) 47	(-) 42	(-) 33

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。

※R4は12月31日現在値を記載。

地域子ども・子育て支援事業 つづき

(6) 子育て短期支援事業（ショートステイ）

事業概要	保護者が疾病等の理由により、家庭での養育が一時的に困難となった児童を児童養護施設等において、養育する事業。短期間の宿泊で子どもを預かるショートステイと平日の夜間などに一時的に子どもを預かるトワイライトステイがある。	
進捗状況	H27.4 ショートステイ開始	児童養護施設「光が丘学園」に委託し、事業実施。令和2年度からは利用者増に伴う受け皿確保のため、里親2家庭へ委託。
	H29.4 トワイライトステイ開始	〃

【人日】

		R1	R2	R3	R4
利用日・延人数	ショートステイ	(37) 7	(311) 92	(298) 136	(284) 16
	上記の内トワイライトステイ	0	1	0	2

※( )内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。  
※R4は1月31日現在値を記載。

(7) ファミリー・サポート・センター事業

事業概要	地域において、育児の預かり等の援助を希望する人と、援助を行う人との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業。	
進捗状況	R4.6 保育サービス講習会	R4.4より病児・病後児の預かりを開始。「ファミリーサポートはおはお」に業務を委託。提供会員の確保のため、保育サービス講習会を1回開催。

【人日】

		R1	R2	R3	R4
援助活動件数		(45) 427	(485) 409	(485) 454	(485) 339
	うち病児・病後児	-	-	-	1
実施箇所数		1	1	1	1

※( )内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。  
※R4は1月31日現在値を記載。

(8) 一時預かり事業

事業概要	家庭等において保護者が病気等で、一時的に育児を受けることが困難となった乳幼児について、主として昼間において、保育所等で一時的に預かり、必要な保育を行う事業	
事業概要	認定こども園 幼稚園	幼稚園終了後、引き続き保育を希望する保護者のニーズに応えるため、在園児を幼稚園において預かり、保育を実施する事業
	保育所	市内在住の保護者が病気や出産、就職活動などで、一時的に子どもの保育ができない時に保育所で預かる事業
進捗状況	認定こども園 幼稚園	市内全ての幼稚園において、幼稚園終了後、在園児の預かり保育を実施している。
	保育所	ふれあい子どもセンター、日の出保育園の2か所で午前8時から午後6時までの8時間を限度に実施している。

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4
利用人数合計		(41,567) 31,946	(41,401) 37,192	(39,676) 39,573	(37,272) 32,277
認定こども園 幼稚園	利用人数	31,865	37,130	39,527	32,241
	実施箇所	5	8	8	8
保育所	利用人数	81	62	46	36
	実施箇所	2	2	2	2

※( )内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。  
※R4は1月31日現在値を記載。

(9) 延長保育事業

事業概要	保育認定を受けた子どもについて、保育標準時間（11時間）または保育短時間（8時間）の利用時間の前後の時間において、保育を実施する事業
進捗状況	引き続き認定区分に対応する保育時間を超えて、保育が必要な世帯の延長保育を行う。

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4
利用人数		(631) 488	(323) 472	(310) 419	(296) 384
実施箇所		13	13	13	13

※( )内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。  
※R4は1月31日現在値を記載。

(10) 病児保育事業（病児・病後児保育事業）

事業概要	子どもが病気のときや病気の回復期にあるため、保育所等での集団保育ができない時などに、専用の施設で一時的に保育を行う事業
進捗状況	病児保育1か所、病後児保育1か所、定員各3名で実施してきたが、R4以降は病児保育1か所定員3名。 ※病後児保育はR4.3.31をもって廃止

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4
利用延人数		(1,724) 133	(741) 50	(710) 135	(679) 65
	実施箇所	2	2	2	1

※( )内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。  
※R4は1月31日現在値を記載。

(11) 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

事業概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生に対し、放課後に児童館等を利用して、主体的なあそびや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業。	
進捗状況	H30.4 対象学年拡大	対象児童を小学3年生までから小学6年生までとし、小学校等にクラブ室を新たに整備し、全21か所（25の支援の単位）で受け入れしている。
	R2.4 おはようキッズ事業	シルバー人材センターに登録する高齢者の協力を得て、通常8時半からの預かり時間を1時間早め、7時半から児童の見守りを実施し保護者の就労を支援。

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4
1日当たり利用児童数	低学年	(463) 784	(738) 741	(711) 688	(703) 662
	高学年	(222) 249	(462) 252	(463) 270	(452) 284
	実施箇所数	22	26	26	25

※低学年：1～3年 高学年：4～6年  
※( )内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。  
※R4は1月31日現在値を記載。

子どもの体験活動補助金

■目的・事業概要  
 子どもの貧困対策の一環として、家庭の状況によって、習い事など子どもの体験機会に差があることを踏まえ、子どもが自分の意志で活動に参加できる機会や場所を提供する団体の活動を支援する。公募・審査により採用された7団体の取り組みに対し、上限10万円を補助した。

■活動実績と成果

名称	こども食堂「げんき」	こども食堂「もぐもぐキッチン」	訪問型フリースクール輝イベント事業（こども食堂等）
参加者数など	高校生以下が対象 6～1月（第3土曜日） 1～2か所、50～200人参加	高校生以下と大人が対象 7月：97人参加 8月：52人参加 10月：67人参加 3月実施予定	青少年が対象 7～3月(第3日曜日) 7・11月～3月（不定期） いわなび・市内児童館等 2～25人参加
実施頻度活動時間	・毎月第3土曜日実施 各2時間～ ・子ども食堂と同時開催で、ミニ縁日やイルミネーションイベント、バザー企画を実施	・1回50～90食、全4回実施 ・開催時間は、11:00-14:00 ・食事だけでなく、縁日や手作りパズル等の遊べる企画を実施	・毎月第3日曜日と長期休み等に室内遊びを中心としたイベント開催 各3～6時間 ・11月からこども食堂を毎月実施
広報活動、創意工夫点など	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載 ・学校、行政福祉部門経由でチラシを配布 ・毎月の定例開催としている ・令和4年度より新拠点を整備	・市教委の後援をとり、市広報紙にも掲載 ・最寄りの小学生全員に学校経由でチラシを配布、そのほか中高にポスター掲示 ・手づくり遊具などを工夫し、親近感もてるあそびを提供	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載 ・最寄りの小学校及び児童館にチラシを配布 ・毎月の定例開催に加えて、不定期にイベントやこども食堂を開催

名称	なんかする会？	マロンドリームレクリエーション	子どものためのヨガ教室	ぴかぴか泥だんごをつくらう
参加者数など	高校生以下を対象 7月：水遊び、59人参加 9月：外遊び、251人参加 1月：雪遊び体験	小中学生と保護者を対象 10月：マロン祭り、169人参加	小学生を対象 7月：3か所、62人参加 8月：3か所、51人参加	小学生を対象 10月：1か所2回、21人 11月：1か所1回、5人
実施頻度活動時間	全3回実施 7月：12:30-15:30 9月：10:00-15:00 1月：10:00-15:00	全3回実施予定 10月：13:30-16:30 3月中に玉入体験・キンポール体験開催予定	全6回実施 7月：10:00-12:00、 14:00-16:00 8月：14:00-16:00	全3回実施 10月：10:00-12:00 3月：10:00-12:00
広報活動、創意工夫点など	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載 ・最寄りの小学校にチラシを配布し、SNSなどでもPRしている ・季節に応じた外遊びを提供	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載、学校経由でチラシ配布 ・地域の伝統行事やお祭りにおいて多世代交流する機会を提供	・市教委の後援をとり、児童館を中心にチラシの配布 ・児童館行事の一環として児童館だよりで周知 ・身体と思考を働かせるヨガポーズで子どもが楽しめるプログラムとした	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載 ・最寄りの小学校にチラシを配布 ・他では体験できない独自の遊びを提供し、マスター認定書等を交付

■今後の予定  
 令和4年度事業は3月末で終了。次年度の予算も同額を確保し、各活動を支える予定。  
 今年度で補助が終了となる団体はいずれも活動継続の見込みのため、引き続き周知活動・実施体制構築等について支援していく。  
 今年度からの新規活動は、今年度の成果と課題を踏まえ、子どもたちと主催者にとってより効果的な活動になるよう引き続き支援をしていく。  
 なお、新型コロナウイルス感染症対策については、適宜最新の情報を補助団体に共有する。

保育所の耐震改修

■目的・事業概要  
 子どもの安全を確保し、質の高い保育環境を提供するため、耐震改修を実施する社会福祉法人に対し、国の補助制度に基づき、建築費用を補助する。

■今後の整備予定  
 みなみ保育園は令和5年度に実施を予定していたが、物価高騰等により実施を見送り。令和5年10月を目途に令和6年度の実施有無を判断する。  
 中央保育園も令和5年度～6年度の2か年で予定していたが、物価高騰等の影響により実施を見送り。具体的な実施時期は未定。



保育士確保対策

■目的・事業概要  
 質の高い保育と幼児教育を安定的に提供するため、法人による保育士・幼稚園教諭の採用活動を支援するため、新規学卒の資格者に対して就職準備金を支給した法人に対し、20万円を上限に補助する。  
 第2期子ども子育てプランの対象期間である令和6年度までの時限制度。

■補助金交付実績

	R2		R3		R4(見込)	
	園	人	園	人	園	人
保育所	6	6	4	6	3	5
幼稚園	2	4	2	2	2	4
計	8	10	6	8	5	9

## 概要

## ■利用定員の変更について

	①	②	③
施設名	岩見沢聖十字幼稚園	岩見沢めぐみ幼稚園	よいこのくに幼稚園
所在地	岩見沢市緑が丘1丁目21-14	岩見沢市7条東9丁目1	岩見沢市9条東1丁目12番地
設置者	学校法人 聖公会北海道学園	学校法人 桐友学園	学校法人 松本学園
変更年月日	令和5年4月1日		
変更理由	未就学児の人口減少に伴い恒常的に定員割れが発生しているため		

## ■認定こども園への移行について

	①	②
施設名	岩見沢聖十字幼稚園	よいこのくに幼稚園
所在地	岩見沢市緑が丘1丁目21-14	岩見沢市9条東1丁目12番地
設置者	学校法人 聖公会北海道学園	学校法人 松本学園
認定こども園の種類	幼稚園型認定こども園	
移行年月日	令和6年4月1日	
移行理由	幼稚園の教育を受けながら保育を必要とする家庭が増加しているため	

## ■利用定員の内訳

(単位:人)

	令和4年度				令和5年度				令和6年度			
	1号	2号	3号	合計	1号	2号	3号	合計	1号	2号	3号	合計
聖十字幼稚園	120	—	—	120	105	—	—	105	75	30	—	105
めぐみ幼稚園	210	—	—	210	120	—	—	120	120	—	—	120
よいこのくに幼稚園	120	—	—	120	105	—	—	105	60	45	—	105
合計	450	—	—	450	330	—	—	330	255	75	—	330

## 市内全体の特定教育・保育施設等の定員

(単位：人)

	施設名	令和4年度					令和5年度					令和6年度				
		1号	2号	3号		合計	1号	2号	3号		合計	1号	2号	3号		合計
				0歳	1・2歳				0歳	1・2歳				0歳	1・2歳	
特定教育・保育施設	ふれあい子どもセンター		60	8	22	90		60	8	22	90		60	8	22	90
	なかよし保育園		32	8	20	60		32	8	20	60		32	8	20	60
	みその保育園		32	8	20	60		32	8	20	60		32	8	20	60
	日の出保育園		50	8	32	90		50	8	32	90		50	8	32	90
	みなみ保育園		50	8	32	90		50	8	32	90		50	8	32	90
	あかしや保育園		32	8	20	60		32	8	20	60		32	8	20	60
	さくらぎ保育園		32	8	20	60		32	8	20	60		32	8	20	60
	西保育園		52	8	30	90		52	8	30	90		52	8	30	90
	中央保育園		54	8	28	90		54	8	28	90		54	8	28	90
	志文保育園		36	8	16	60		36	8	16	60		36	8	16	60
	みどり保育園		30	8	22	60		30	8	22	60		30	8	22	60
	ひまわり保育園		32	8	20	60		32	8	20	60		32	8	20	60
	栗沢認定こども園	15	30	3	12	60	15	30	3	12	60	15	30	3	12	60
	ひがし認定こども園	12	31	8	21	72	12	31	8	21	72	12	31	8	21	72
	ほろむい認定こども園	15	50	8	32	105	15	50	8	32	105	15	50	8	32	105
	天使幼稚園	105				105	75	30			105	75	30			105
	聖十字幼稚園	120				120	105				105	75	30			105
	めぐみ幼稚園	210				210	120				120	120				120
駒沢幼稚園	210				210	150				150	150				150	
よいこのくに幼稚園	120				120	105				105	60	45			105	
小計	807	603	115	347	1,872	597	633	115	347	1,692	522	708	115	347	1,692	
特定地域型保育事業	ぼけっと			3	16	19			3	16	19			3	16	19
	こっころつばみ保育園			3	16	19			3	16	19			3	16	19
	わくわく保育園			3	16	19			3	16	19			3	16	19
	こっころ保育園			6	13	19			6	13	19			6	13	19
	小計	0	0	15	61	76	0	0	15	61	76	0	0	15	61	76
その他	美流渡保育所		6	0	2	8		6	0	2	8		6	0	2	8
	北村中央保育所		28	0	11	39		28	0	11	39		28	0	11	39
	北村幌達布保育所		8	0	3	11	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0
	恵比寿保育園			3	16	19			3	16	19			3	16	19
	あおぞら保育園			3	7	10			3	7	10			3	7	10
	小計	0	42	6	39	87	0	34	6	36	76	0	34	6	36	76
合計	807	645	136	447	2,035	597	667	136	444	1,844	522	742	136	444	1,844	

### 各年度の主な変更点

#### ■令和4年度の変更点

- ・特になし

#### ■令和5年度の変更点

- ・天使 認定こども園移行
- ・聖十字 定員の減
- ・めぐみ 定員の減
- ・駒沢 定員の減
- ・よいこ 定員の減
- ・幌達布 廃所

#### ■令和6年度の変更点

- ・聖十字 認定こども園移行
- ・よいこ 認定こども園移行

# 幼稚園型認定こども園への移行の考え方 (28頁 幼児期の学校教育・保育の量の見込み(人))

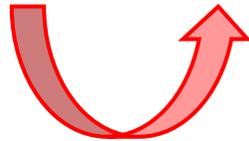
## ■現計画

年度	1号認定		2号認定	3号認定	
		うち保育を必要とする事由に該当するが幼稚園を希望		0歳	1・2歳
令和2年度	803	320	633	143	381
令和3年度	771	308	607	137	363
令和4年度	724	289	570	133	355
令和5年度	619	266	680	84	283
令和6年度	575	247	632	79	266



## ■現計画 (新2号認定を2号認定とみなした場合)

年度	1号認定		2号認定	3号認定	
		うち保育を必要とする事由に該当するが幼稚園を希望		0歳	1・2歳
令和2年度	803	320	633	143	381
令和3年度	771	308	607	137	363
令和4年度	724	289	570	133	355
令和5年度	619	266	680	84	283
令和6年度	575	0	879	79	266



新2号認定を  
2号認定とみなして試算

$$575 - 247$$

$$632 + 247$$

### ■更に保護者が利用しやすい環境を整備

- ・長期休暇（夏休み、冬休み等）も安心して幼稚園に預けることが可能になる。
- ・長時間預けても保護者の自己負担額が発生する可能性が低くなる。 など

①現計画

	令和5年度				令和6年度				
	1号	2号	3号		1号	2号	3号		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み①	619	680	84	283	575	632	79	266	
確保の内容②	特定教育・保育施設	647	673	115	347	647	673	115	347
	特定地域型保育事業			15	61			15	61
	その他		42	6	39		42	6	39
<参考>乖離 (①/②)	95.7%	95.1%	61.8%	63.3%	88.9%	88.4%	58.1%	59.5%	



②利用定員の変更及び認定こども園への移行に伴う影響

	令和5年度				令和6年度				
	1号	2号	3号		1号	2号	3号		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み①	619	680	84	283	575	632	79	266	
確保の内容②	特定教育・保育施設	597	633	115	347	522	708	115	347
	特定地域型保育事業			15	61			15	61
	その他		34	6	39		34	6	39
<参考>乖離 (①/②)	103.7%	101.9%	61.8%	63.3%	110.2%	85.2%	58.1%	59.5%	

《参考》

③新2号認定を2号認定とみなして試算

	令和5年度				令和6年度				
	1号	2号	3号		1号	2号	3号		
			0歳	1・2歳			0歳	1・2歳	
量の見込み①	619	680	84	283	328	879	79	266	
確保の内容②	特定教育・保育施設	597	633	115	347	405	825	115	347
	特定地域型保育事業			15	61			15	61
	その他		34	6	39		34	6	39
<参考>乖離 (①/②)	103.7%	101.9%	61.8%	63.3%	81.0%	102.3%	58.1%	59.5%	

■試算の考え方

- ・「量の見込み①」について、1号認定児童のうち新2号認定児童相当数を2号認定として試算。
- ・そのため、「確保の内容②」についても、1号認定児童を受入している施設全てを1号と2号に案分しなければ平等な比較ができないため、現時点で認定こども園への移行を示していない、めぐみ幼稚園と駒沢幼稚園の1号認定児童も新2号認定の認定者割合(43%)で案分して試算。

	1号	2号
めぐみ幼稚園	120	0
駒沢幼稚園	150	0
合計	270	0



	1号	2号
	68	52
	85	65
	153	117

差 △ 117 117

■乖離が小さくなり、需要と供給のバランスが保たれる。